

国内ニュース

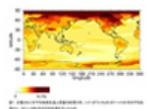
東京大など、海洋酸性化がサンゴの石灰化阻害などに与える影響を評価

発表日：2017.08.21

東京大学大気海洋研究所、海洋研究開発機構、産業技術総合研究所、気象庁気象研究所の研究グループは、サンゴ骨格から海洋酸性化の履歴を読み解き、石灰化阻害などの影響を評価した。今回研究グループは、父島（小笠原諸島）・喜界島（奄美群島）に生息し、100年以上生きるとされる造礁サンゴの一種、ハマサンゴの骨格を対象として、そのホウ素同位体比および炭素同位体比を分析した。その結果、海洋酸性化による海水のpH低下により、サンゴの石灰化母液のpHも低下することが明らかとなった。これは、サンゴの石灰化母液は恒常性を保とうとする機能を有するため、環境の変化によってpH低下は置きにくいとする従来の見解とは異なるもので、海洋酸性化が石灰化阻害に影響し始めていることを示唆しており、サンゴ礁生態系の未来を予測する上で重要な知見であるという。

情報源	東京大学大気海洋研究所 プレスリリース 産業技術総合研究所 研究成果
機関	東京大学大気海洋研究所 海洋研究開発機構 (JAMSTEC) 産業技術総合研究所 気象庁気象研究所
分野	地球環境 自然環境
キーワード	海洋研究開発機構/産業技術総合研究所/白化/海洋酸性化/サンゴ/東京大学大気海洋研究所/気象庁気象研究所/石灰化
関連ニュース	琉球大など、サンゴの骨格形成の高精度な可視化に成功 東京大学大気海洋研究所と沖縄科技大、サンゴと共生褐虫藻の遺伝子を同時に解析 国環研など、東京スカイツリーで温室効果ガスの観測を開始 産総研など、海水のpH測定法が国際規格として発行されたと発表 東京大学大気海洋研究所など、2000年代の気温変化の3割は自然の変動が要因と発表 JAMSTECとFRA、海洋及び水産に関する包括連携協定を締結 北海道大学など、最古（350万年前）のエルニーニョ現象の証拠をフィリピン産化石サンゴに発見 内閣府、第15回産学官連携功労者表彰の受賞者を発表 環境省、岡山県水島港におけるヒアリ確認情報（続報）を公表 大成建設など、循環式養液栽培方式を利用した壁面緑化システムの実証結果を発表

関連する環境技術



気候変動予測技術



風力発電



バイオマス発電



太陽光発電



燃料電池

[ページ先頭へ](#)